株式会社ブレインワークス

ベトナムでの活動実績を生かし、アフリカビジネスに挑む

株式会社ブレインワークス
代表取締役
近藤　昇　*Noboru Kondo*

アフリカからのインターンの方々と駅前清掃

ベトナムにおける20年の実績

建ち並ぶ高層ビルの数々を縫うように張り巡らされた道には二輪と四輪がひしめき合い、大渋滞を引き起こしている。街角のあちらこちらには新たなビル開発の工事現場には多くの作業員がせわしなく動き回っている。今から20年前、ベトナム・ホーチミン市に初めて降り立ったときの光景とは明らかに異なる。大きな変化の波が絶え間なく時間の流れと共に押し寄せ、街を飲み込み、現在のホーチミン市の光景を生み出したのだろう。しかし、その変化はまだ現在進行中である。これからもこの街は変わり続け、訪れる人々に驚きを与えてくれるはずだ。

当社がベトナムに活動拠点を設立したのは1998年である。ホーチミン市郊外にIT開発の拠点を構え、活動を開始した。キッカケはすでに進出を果たしていた人材系会社の社長の強い勧めがあったからだ。将来性や戦略性を優先させた進出ではなかった。信頼できる人間が「一緒にやろう」と言ってくれる。それで十分である。当社は「何をするかよりも、誰とするか」を重視し、実践する会社であると自負している。そのことは、その後、多くの日本企業の皆さまにもお伝えしてきた。ベトナムのキッカケはまさにその言葉のとおり、スタートしたのである。

当時はベトナムに進出している企業の数もわずかな時代である。その中で実感したことは教育の大切さである。「ベトナム人だから、日本人だから」という枕詞に流されず、大切なことをじっくり教えていけば、人は育つことを改めて学んだ。その経験をもとにして2007年、IT人材の専門学校「サイゴンブレインジャパン（SGBJ）」を現地企業と共に開校した。大学卒業者にITだけでなく、日本語とビジネスマナー、日本文化を教えた。優秀なエンジニアが何人も生まれることになる。

その他にもベトナムでは、さまざまな分野における活動を展開している。例えば、建築・建設業界に関しても約10年前から調査・分析を続けており、現在の建築・建設ラッシュの時代を迎えたベトナム市場の趨勢はほぼ把握していると自負している。また、日本だけでなくベトナムの地方都市活性化についても独自の活動を展開しているといっても過言ではない。当社はベトナム南部のカントー市において5年前から「越日経済交流文化フェスティバル」をカントー市人民委員会、商工会議所と共に企画開催している。その場において日本の地方都市とベトナムの地方都市の人的交流を深め、お互いにビジネスや協創のキッカケをつくりたいと考えている。

このようなベトナムにおける活動の実績がアフリカへのビジネスの地盤を形成していることは間違いない。

ウガンダでの体験

アフリカ大陸に初めて降り立ったのは2016年5月である。当時、弊社の若手社員が国際協力機構（JICA）の民間連携ボランティア制度を利用して、ウガンダへ赴任していた。その社員の活動の様子を視察することが当初の目的であった。初めて同国のエンテベ国際空港に降り立ったときのギャップは今でも忘れない。アフリカというイメージから「灼熱の大地」を想像していたが、その予想は見事に裏切られ、さわやかで澄み切った風が私たちを出迎えてくれた。それもそのはず。空港周辺と首都カンパラは標高1,000m以上で平均気温は22～23度くらいと、日本の春秋に近い気候。しのぎやすい気候に驚きながら、空港から首都への道でその光景を窓から眺めていた。

ウガンダでは首都カンパラ以外にも、弊社社員が活動している郊外へも出向いてみた。すると、電気もほぼ通っていない地域で井戸の改修にあたっている。周辺を散策してみると、小さな子供たちが井戸の水を運んでいる。学校は皆が行けるわけではないと現地の方に聞いた。モノがあふれる日本との違いをまざまざと実感する。しかし、日本では見ることのできないほど子供たちの笑顔はどこまでも底抜けに明るい。

また、ウガンダで実感したのは「農業国」であるという現実である。車で移動していると広大な農地が広がっている。私は徳島県の農家の出身だ。だから、このような風景を見るとついワクワクしてしまう。ベトナムでもそうだった。大都市から郊外へ移動するとかつての日本の田園風景がのどかに広がる。そして、その風景を見ながら、農業の可能性を改めて感じることができる。たった3日間の滞在であったが、ウガンダの、そしてアフリカの可能性を肌身で感じられた貴重な体験であった。

ルワンダとの出会い

2016年6月～8月の約3ヵ月、日本にいてもアフリカに関する情報を数多く収集する毎日が続いた。ウガンダをきっかけとして、アフリカ、特に東アフリカに関する知識が深まった時期でもあった。その中でもウガンダの隣にあるルワンダは不思議な縁を感じる国である。弊社は今から25年前に神戸で創業した。その神戸市が

産学官あわせてルワンダと緊密な関係を築いていることを知ったのだ。神戸情報大学院大学では2012年からルワンダから留学生を受け入れており、神戸市もルワンダへ視察に出向いていた。

ルワンダは「内戦」で世界的に有名になった国だ。1990年～1993年に勃発した民族紛争で多くの人々が虐殺された。その悲劇が同国の歴史に重くのしかかり、今でもその傷痕は消えてはいない。しかし、その後の経済発展は目覚しく「アフリカの奇跡」とも呼ばれ世界中がこの小国の急成長に注目している。現在ではIT立国として“アフリカのシンガポール”的な存在ともいえよう。そんな情報を整理しながら、私はこの国で改めてICT事業の可能性を確信し、本格的な進出を決断した。

2016年9月下旬、私はまたアフリカの地に降り立った。今回はルワンダのキガリ国際空港だ。小高い丘が連なるその光景は本当に美しく、幻想的。「千の丘の国」と呼ばれる所以だ。私たちはRwanda Development Board（ルワンダ開発委員会）にてBRAIN WORKS AFRICAの会社設立の手続きを済ませた。すでに日本を飛び立つ際にはルワンダでの活動が楽しみでならなかった。実際に当地を訪れ、その期待が確信に変わった。日本では不可能であるイノベーションの創出がこの国では実現できるはずと意を固めたのだ。

ルワンダの街並み

本格的なアフリカビジネスのスタート

ルワンダの会社設立においてはさまざまな方に協力いただいた。特にルワンダICT商工会議所とは会社設立だけでなく、弊社の事業推進におけるカウンターパートとしても頻繁に情報交換を重ね、貴重な意見もいただいた。

IT立国として躍進するルワンダでは起業家やエンジニアの交流を支援するコワーキングスペース「KLAB」が2012年にオープンした。その後、2016年には3Dプリンターや NC工作機器などからプロトタイプをつくりだすことができるラボである「FabLab」がオープンする。ルワンダ国内の起業家を輩出するプラットフォームが急速に整備された。

弊社は日本国内で創業以来、培ってきたICT分野、情報セキュリティ分野においてルワンダ国内の技術革新、人材育成に貢献していくことを目指している。ルワンダICT商工会議所とは度重なる意見交換を経て、2018年5月に「東アフリカサイバーセキュリティコンソーシアム」を設立するためのMOUを締結した。これはルワンダをサイバーセキュリティ技術における東アフリカのハブとして情報と人材を結集させ、若手人材や起業家を刺激し、東アフリカ発祥のサイバーセキュリティテクノロジー企業群の育成、人材育成を進めるための布石である。

また、弊社国内事業のもうひとつの柱には建築・建設ビジネスがある。日本国内のみならず、ベトナムでは約10年前より市場調査や現地企業とのコンサルティング契約などを締結し、本格的な事業推進の準備を整えていた。併せて、ミャンマー、ネパールの国々においても同分野のビジネス展開の準備を進めている。

首都キガリの経済発展の様相は、この建築・建設分野においても弊社が日本における経験、ノウハウを生かすことができると考えているが、一足はやく、同じ東アフリカ地域のケニアにおいてその取り組みをスタートさせることができた。国際協力機構（JICA）が募集した「2017年度第2回中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」にて、弊社が提案した「住宅建築における安全化、省エネ・省資源化・衛生化へ向けた産業人材育成のための案件化調査」が採択されたのだ。熟練の建築技術者が不足しているケニアでは住宅建築分野における安全化、省エネ・省資源化、衛生化が大きな課題となっている。この課題に対し、住宅建築分野の人材育成のためのODA案件化を通じて質の高い技術者の供給を増やし、都市環境・インフラの質的改善を図ることを目的とした調査を実施している。すでにケニア現地では公共機関、民間企業などの協力のもと、さまざまな活動を行い、一定以上の成果が得られた。この知見とノウハウは、ケニアだけでなくルワンダをはじめとしたアフリカ諸国にも生かすことができると信じてやまない。

2019年4月には弊社が日本、ベトナム、中国、ミャンマーなどで開催を重ねてきた「EGA（エマージンググローバルエリア）ビジネスカンファレンス」を開催する予定だ。ここでは多くのルワンダ企業と日本企業関係者の交流を行い、両国のビジネス活動促進の一助にしたいと考えている。

ルワンダにおけるビジネスを加速

日本とアフリカの関係性強化に一役買っているのが官民一体となって推し進めている「ABEイニシアティブ」であろう。アフリカの若者の産業人材育成プログラムである。弊社もこの「ABEイニシアティブ」のもとアフリカ各国のインターン生の受け入れを2017年から開始した。アフリカのさまざまな国から日本に来た若者と、短期とはいえ交流できる機会をいただいたのは弊社のアフリカビジネスの後押しとなったことは間違いない。また、2019年はルワンダにおけるICT分野、情報セキュリティ分野が本格的に動き始める予定である。さらに、ケニアで実績を積み重ねることができた住宅建築分野の人材育成事業もルワンダにて推し進めていく予定だ。

2019年1月7日～10日までルワンダのポール・カガメ大統領が来日した。1月8日には帝国ホテル（東京都）にて、関係性の深い神戸市の久元喜造市長、神戸情報大学院大学の福岡賢二副学長らと共に私もカガメ大統領との会談に同席させていただいた。その際、カガメ大統領の言葉を聞きながらさまざまな分野で今までの経験とノウハウを生かせるのではないかと確信している。ICTや情報セキュリティの分野はもちろんのこと、建築・建設、農業などの分野において、ルワンダの発展にこれからも寄与していきたいと考えている。

「KLAB」の様子

ケニアでの案件化調査で多くの関係者と意見交換

カガメ大統領との会談時の様子